

オスプレイ飛行 きょう以降再開

防衛省は13日、陸上自衛隊と在日米軍が保有する輸送機オスプレイに関し、14日以降、準備が整った機体から順次飛行を再開すると発表した。沖縄県や同県宜野湾市、山口県岩国市に伝達した。米軍は鹿児島県・屋久島沖で昨年11月に起きた8人死亡墜落事故を受け、世界中でオスプレイ全機種種の飛行を停止。陸自も見合わせた。米軍は今月8日に停止措置を解除していた。 関連⑧面

事故原因について詳細を伏せたままの再開に、配備先の自治体を中心に安全性への懸念は強く、反発が高まっている。沖縄県の玉城デニー知事は13日、説明が

不十分だとして「到底納得できず、認められない」と県庁で記者団に述べた。米海兵隊のMV22オスプ

レイが配備された普天間飛行場のある宜野湾市の松川正則市長は、防衛省の説明後、取材に応じ「事故原因について説明がなかった。市民の不安を払拭できるようにしてほしい」と話した。防衛省によると、陸自は14機を千葉県の木更津駐屯地に配備。うち佐賀県の目

達原駐屯地と、熊本県の高遊原分屯地にそれぞれ1機がとまっている。

防衛省の担当者は「陸自はまず木更津の飛行再開に注力する」と説明した。当面は駐屯地周辺を飛び、隊員の技量回復を図った上で、空域や運用内容を拡大する方針。米軍も同様の措置を取るとしている。米軍は普天間にMV22を24機、東京都の横田基地に空軍のCV22を5機配備。現在、山口県の岩国基地、沖縄県の嘉手納基地に駐機しているのが確認されている。